日刊 建設工業新聞
12月18日 火曜日
第19571号

発行所　日刊建設工業新聞社
〒105－0021 東京都港区東新橋２－２－10
電話03(3433)7151　https://www.decn.co.jp/
©日刊建設工業新聞社 2018
記事　電話03－3433－7161　mail-ed@decn.co.jp
購読　電話03－3433－7152　mail-sa@decn.co.jp
広告　電話03－3433－7154　eigyo@decn.co.jp

明治維新150年と治水の歴史

竹林征三

〈41〉治水思想・鯀の失敗と禹の治水

治水の神・禹（う）の伝説は４０００年も昔の中国の神話であり、日本の治水とは関係ない、ましてや科学技術の進歩した現在の治水とは何ら関係がないと言われるかもしれない。そうではない、脈々と現在の治水に有益なメッセージを伝えている。禹の治水とは何かを理解するためには、鯀（こん）の治水の失敗との対比で論じることが重要である。

鯀は、黄河の氾濫を治めるに当たり、結果を急ぐために河川の挙動や自然のことわりを理解せず、大土工事で破堤箇所を連続堤によりふさぐ治水〈湮（いん）の治水〉を行い、一時的に成功したように思えたが、またすぐに破堤を繰り返し失敗した。その後を受けた禹は鯀の治水の失敗の原因を徹底的に学ぶとともに、全国の河川を調査し、先人の素晴らしい知恵を求めた。

伏羲（ふっき）と女媧（じょか）に自然現象の理解法や精密な測量技術を学んで、いろいろ実践を重ねること13年間、家庭を顧みず自分の身体は半身不随ボロボロ、足は不自由となり禹歩になってしまった。その結果、治水の成功をおさめた。

禹の治水の一番大切な点は先人の失敗から謙虚に学ぶことである。技術の歴史は失敗の克服の歴史である。禹は治水の成功により、治水の神となる。禹は固辞したが禅譲の形で帝位を譲られ、中国で初めて統一国家・夏王朝初代の王となり、王位に就くこと45年、徳政により中国古代の聖王中の聖王となった。

禹王の事績に匹敵する治水の功績だと高く評価されている治水の先人が明治以降もたくさんおられる。禹王遺跡に記された明治以降に活躍された治水の先覚を思い付くまま列挙する。

▽金森吉次郎（１８６４〈元治元〉年～１９３０〈昭和５〉年）揖斐川の治山治水、揖斐川の澪切りの決死覚悟の英断

▽山田省三郎（１８４２〈天保13〉年～１９１６〈大正５〉年）禹の治水を目指す。木曽長良川の治水

▽大橋房太郎（１８６０〈万延元〉年～１９３５〈昭和10〉年）淀川・寝屋川の治水。治水翁と激讃されている。治水翁碑

▽建野郷三（１８４１〈天保12〉年～１９０８〈明治41〉年）大阪府知事、淀川伊加賀切れ洪水、態と切りを決断。桜ノ宮神社の澱河洪水記念碑銘

▽関義臣（１８３９〈天保10〉年～１９１８〈大正７〉年）大阪府権判事。１８６８〈明治元〉年淀川大洪水５か月で復旧。明治戊辰唐崎築堤碑

▽沖野忠雄（１８５４〈嘉永７〉年～１９２１〈大正10〉年）治水港湾の祖、機械化施工の祖。淀川改修紀功碑

▽古市公威（１８５４〈嘉永７〉年～１９３４〈昭和９〉年）日本の近代工学の祖。東大構内に銅像

▽九頭竜川の治水で有名な継体天皇ゆかりの足羽神社に杉田定一の治水顕彰碑がある。▽利根川関宿に治水家船橋隋庵の水土功績の碑が建立されている。その他にも▽旭川水系誕生寺川川口修提之碑の河村峯。▽鳥取伯耆町に篠田・大岩二君功労記功碑がある。日本各地に治水の先覚頌徳碑が建立されている。

それらの石碑には禹王の治水に比肩されるべき治水の功績だと高らかに刻されている。それを禹王遺跡と称している。現在日本各地に１３０位が報告されている。そのうち特に内容の豊かな石碑の場所でこれまで禹王サミットが６回開催されている。

第１回は２０１１（平成23）年。神奈川県開成町。富士山の宝永噴火後、暴漲氾濫を繰り返していた酒匂川を見事に治めた田中丘隅の治水を称賛し、文命宮、文命東碑と西碑。第２回は２０１２（平成24）年10月。尾瀬かたしな村、利根川源流、大禹皇帝碑、鳥虫篆書体77文字。第３回は２０１３（平成25）年。讃岐・高松、大禹謨、西嶋八兵衛の香東川の治水。ダム築造の名人。栗林公園。

第４回は２０１４（平成26）年。広島市安佐、太田川、大禹謨。太田川の治水の要の地。広島豪雨のため紙上開催。第５回は２０１５（平成27）年。臼杵市、臼杵川、治水神禹王と農業神后稷合祀（ごうし）の壇と不欠塚。第６回は２０１７（平成29）年。山梨県富士川町、富士水碑、禹之瀬開削30周年紀念。（本連載の第40話に詳述。参照）

〈参考文献・『物語日本の治水史』鹿島出版会〉

（常葉大学名誉教授、風土工学デザイン研究所会長）

＝週１回掲載